

ほんじつ  
本日のおすすめの本<sup>50</sup>

がっこうとしょかん  
～学校図書館だより号外～  
ごうがい



ブックマ

令和3年2月5日  
横浜市立本牧南小学校  
学校司書 青木美佳

『**パンダの手にはかくされたひみつがあった！**』

やまもとしょうぞう ぶん 2007年初版 くもん出版 貸し出し可(4の書棚)



はい ほん  
あたらしく入った本です！



物をにぎろうとすると、親指は、人さし指のとなりから、くるりと向きをかえます。そして、親指は、ほかの四本の指と向かい合う形をとります。

このように親指が、ほかの指ときちんと向かい合えるのは、人間だけだそうです。

ここに、物を上手にぎるひみつがかくれているのです。

チンパンジーやオラウータンやゴリラなど、人間にちかいといわれるサルの仲間でも、物はつかめますが、人間ほど親指をしっかりと使うことはできません。

さて、人間やサルのほかに、ものを上手ににぎれる動物がいます。

それは・・・「パンダ」です。パンダは、大きく分けるとクマの仲間にはいますが、クマは物をつかんで何かをすることはできません。

でも、パンダは上手に笹や竹をつかんで、おいしそうに食べますね。それはどうやらパンダの「親指」にひみつがあるようなのです。

そのひみつとはいったいなんなのか・・・。

1930年ころ、そのひみつをときあかさした動物学者がいます。遠藤秀紀さんです。

さてさて・・・

疑問に思ったことを研究する上で、仮説(もしかしたら、こういうことかな・・・？と自分でかんがえたこと)を立てて、その次に、それが本当に事実なのかを確かめていくことを「検証」といいます。

そして、その「検証」から新たなことがわかったりします。

このような「仮説」「検証」「新たな発見」について書かれた本を、「科学よみもの」といいます。

4番の棚にたくさんありますので、ぜひ、読んでみましょう。

